

# 日本酒をめぐる状況

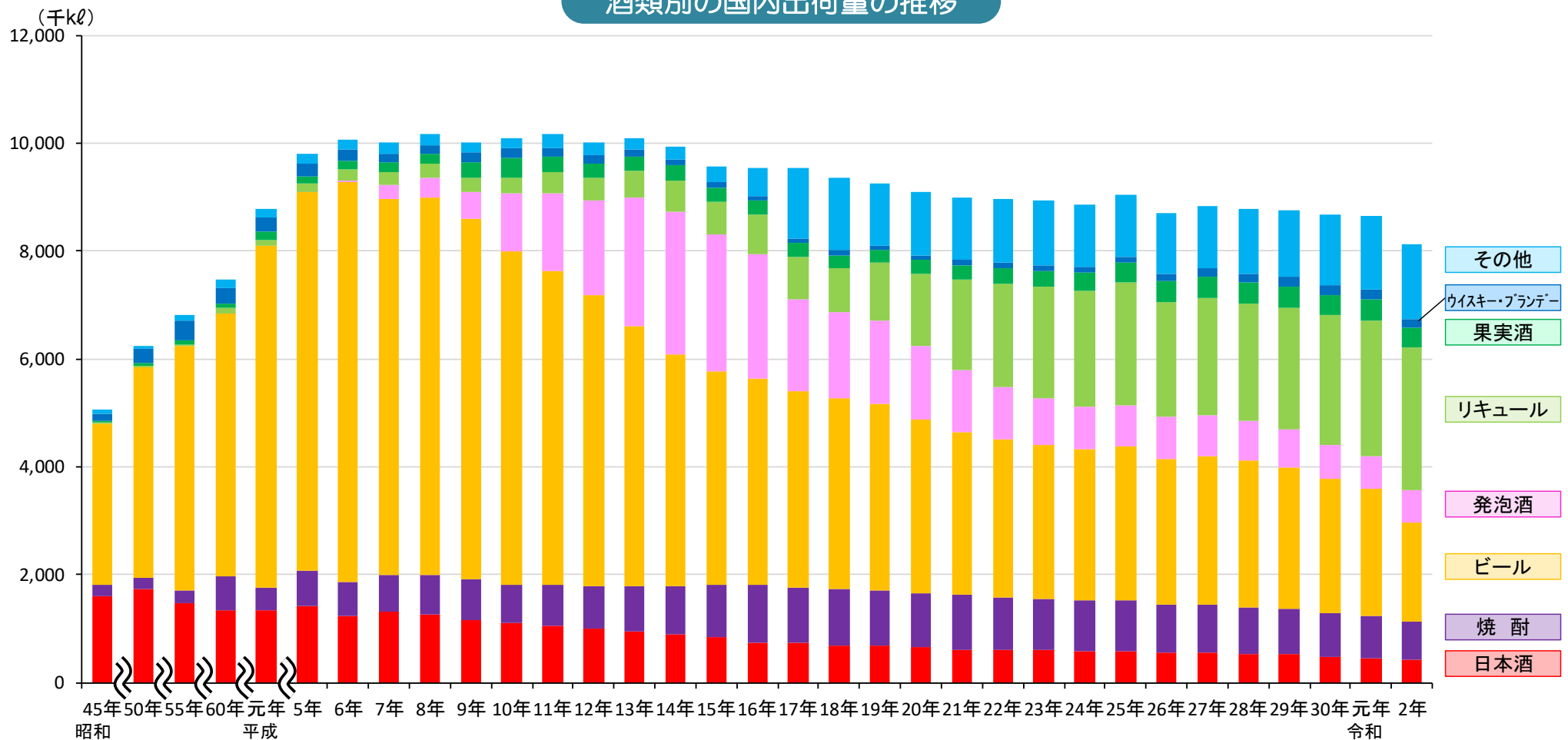
---

令和4年5月  
農林水産省 農産局

# 1 酒類別の国内出荷量の推移

- アルコール飲料全体の国内出荷量は、消費者志向の変化等により、酒類間での移動を伴いながら、全体ではやや減少傾向で推移。令和2年度では814万kℓとなっている。
- 近年では、日本酒、焼酎、ビールなどが減少する一方で、チューハイなどのリキュール、ウイスキーが増加している。

酒類別の国内出荷量の推移



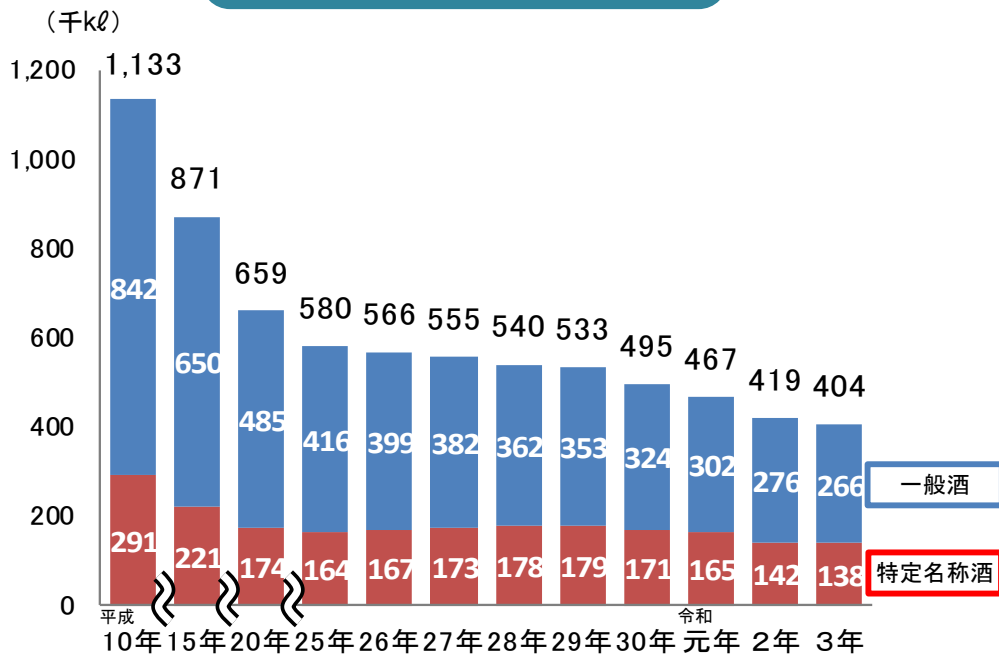
資料：「国税庁統計年報」（国税庁）。年は会計年度。

注：出荷数量は酒類課税数量。焼酎は連続式蒸留焼酎及び単式蒸留焼酎の合計、果実酒には甘味果実酒を含む、その他は合成清酒、みりん、スピリッツ、その他醸造酒等の合計。

## 2 日本酒の国内出荷の状況

- 日本酒の国内出荷量は、ピーク時（昭和48年）には170万klを超えていたが、他のアルコール飲料との競合などにより減少傾向で推移。平成30年以降は国内出荷量の減少幅が大きくなり、これまで堅調に推移していた特定名称酒（吟醸酒、純米酒等）についても減少に転じ、令和3年では約40万klまで減少。
- 令和2年においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、業務用を中心に日本酒の国内出荷量が対前年比▲10%と減少。特に、酒造好適米を多く使用する特定名称酒は対前年比▲14%と大幅に減少。
- 令和3年においても、国内出荷量、特定名称酒ともに引き続き前年を下回っているところ。

### 日本酒の国内出荷量の推移

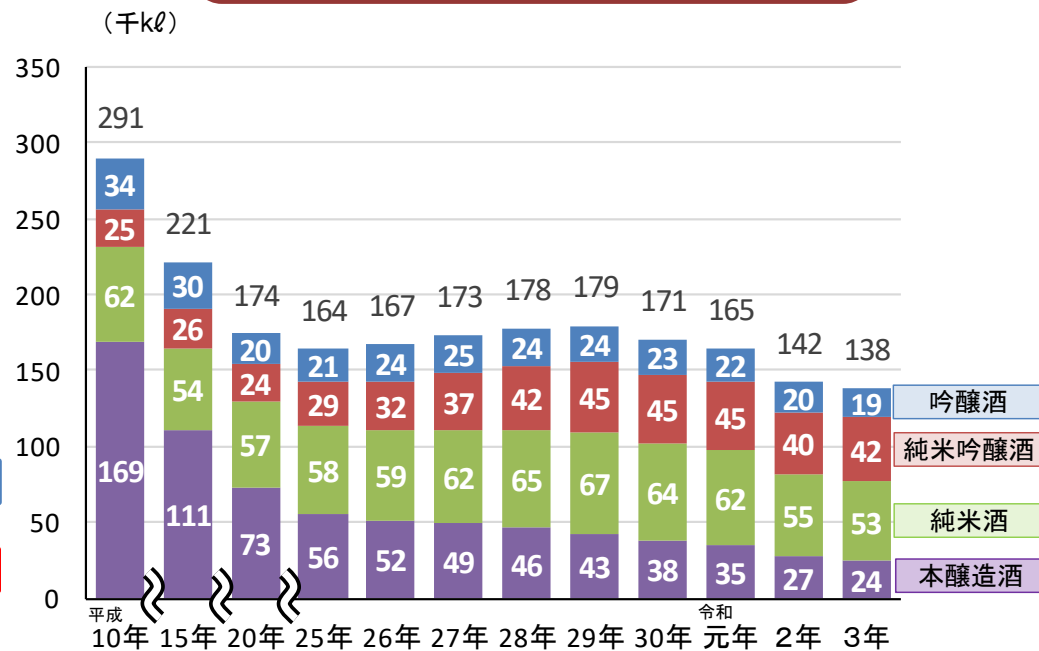


資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。

2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

### 特定名称酒の種類別出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。

2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

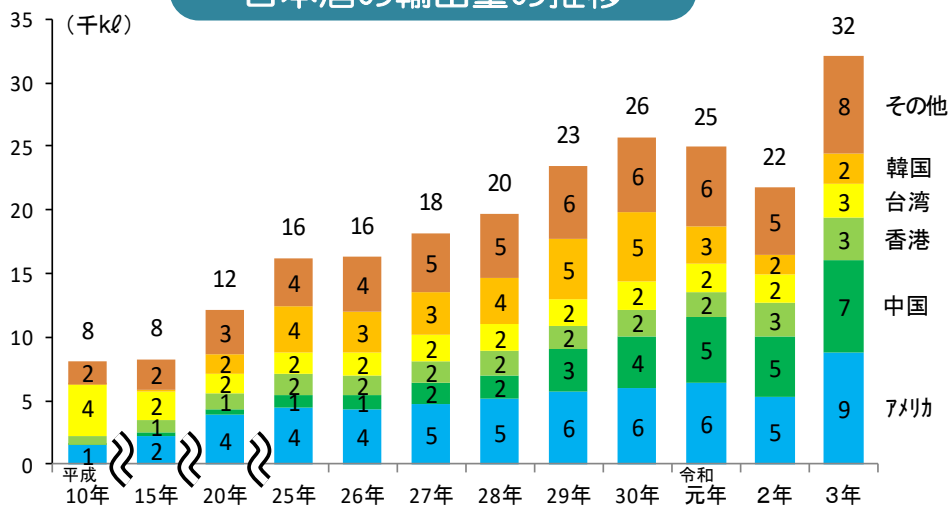
### 日本酒の国内出荷量に占める特定名称酒の割合

年	平成10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年
割合	26%	25%	26%	28%	30%	31%	33%	34%	34%	35%	34%	34%

### 3 日本酒の輸出の状況

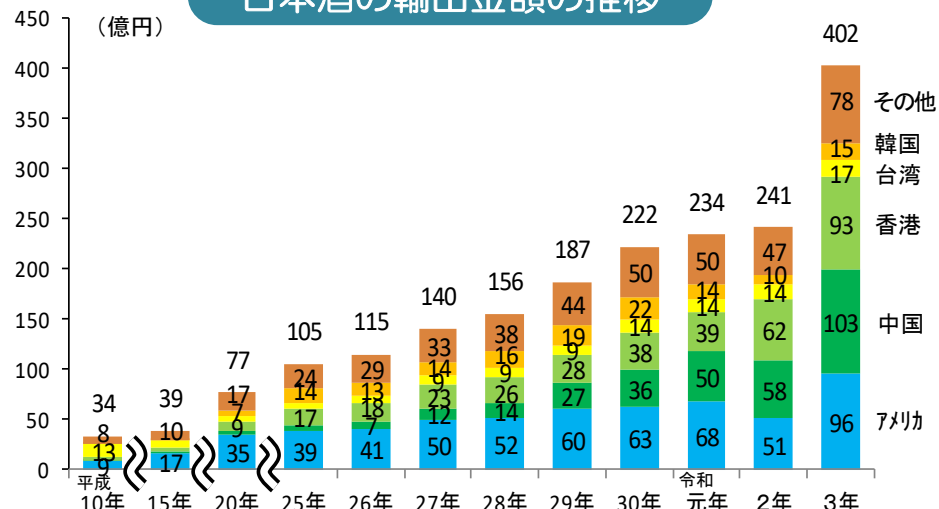
- 日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出量については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延等の影響により、令和2年は減少したが、令和3年には対前年比+47%と大幅に増加。
- 日本酒の輸出金額についても、令和3年には対前年比+66%と大幅に増加。
- 令和3年における日本酒の輸出先国は70ヶ国で、このうち、アメリカ、中国、香港、台湾、韓国の5ヶ国・地域で数量及び金額の約8割を占めている。

日本酒の輸出量の推移



資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

日本酒の輸出金額の推移



資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

日本酒の全出荷量に占める輸出量の割合

平成10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年
0.7%	0.9%	1.8%	2.7%	2.8%	3.2%	3.5%	4.2%	4.9%	5.1%	4.9%	7.3%

注：年は暦年。3年は概算値。

輸出先国別平均輸出単価

	平均	香港	中国	アメリカ	台湾	韓国
令和3年	1,254	2,870	1,414	1,087	652	621

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

## 4 日本酒原料米の使用状況

- 日本酒の原料米は、一般的に主食用としても流通している品種のほか、醸造用に適した品種である山田錦、五百万石などの「酒造好適米」が使用されており、これらの酒造好適米については、主に契約栽培による取引が行われている。
- 日本酒原料米の使用量については、日本酒の国内出荷量が減少傾向で推移する中で、
  - ① 平成25～29年産は、高精白米を使用するため製品当たりの玄米使用量が多い特定名称酒が堅調に推移していたこと等により、24～25万トン程度で推移。
  - ② 平成30年産以降、日本酒の国内出荷量が大幅に減少し、特定名称酒についても減少に転じたこと等から、令和2年産で約18万トン（対前年比▲12%）に減少。
  - ③ 今後については、日本酒の国内出荷量の減少傾向が続いている一方、輸出の増加等が期待されており注視が必要。

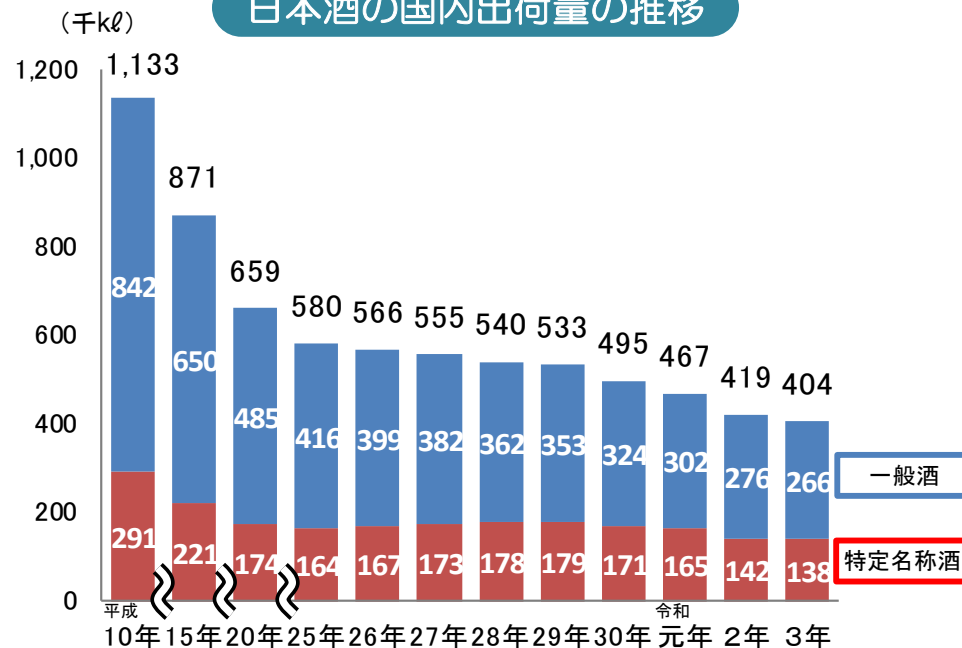
### 日本酒原料米の使用状況

（単位：千トン）

	平成 10年産	15年産	20年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	令和 元年産	2年産
日本酒原料米	405	315	261	243	248	251	241	240	227	206	180
酒造好適米	99	75	77	76	90	99	97	94	88	83	70
加工用米	86	89	74	95	105	94	93	88	90	85	63
その他	220	151	110	72	53	58	51	58	49	38	47

資料：農林水産省による推計値。

### 日本酒の国内出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。

注2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

# 5 酒造好適米の生産状況

- 令和3年産酒造好適米の生産量は、近年の日本酒の国内出荷量の減少等の影響により、約7.4万トンとなっており、このうち、兵庫、新潟、岡山、秋田、長野の5県で約5割を占めている。
- 酒造好適米の中でも、「山田錦」、「五百万石」は、全国の酒造メーカーからのニーズが多く、この2銘柄で酒造好適米全生産量の約6割を占めている。

## 酒造好適米の産地別生産量の推移

(単位:トン)

	平成 29年産	30年産	令和 元年産	2年産	3年産	シェア
	全国計	102,400	95,856	96,454	85,179	73,631
兵庫	28,377	25,606	25,766	22,338	19,832	27%
新潟	12,316	12,404	12,000	11,223	8,564	12%
岡山	6,283	5,251	5,704	4,029	4,519	6%
秋田	4,821	4,637	5,010	4,613	4,010	5%
長野	6,294	5,786	5,962	4,982	3,513	5%
その他	44,310	42,172	42,012	37,995	33,192	45%

資料:「農産物検査結果」(農林水産省)

注:3年産は、令和3年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計したもの。

## 酒造好適米の銘柄別生産量の推移

(単位:トン)

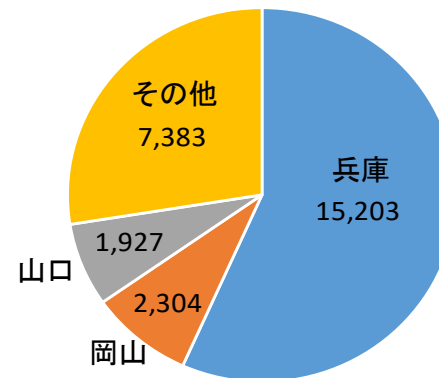
	平成 29年産	30年産	令和 元年産	2年産	3年産	シェア
	全国計	102,400	95,856	96,454	85,179	73,631
山田錦	38,431	33,916	34,644	28,342	26,818	36%
五百万石	20,564	21,203	19,767	17,561	13,713	19%
美山錦	7,018	6,408	6,475	5,710	3,780	5%
雄町	2,873	2,723	2,932	1,987	2,289	3%
その他	33,514	31,607	32,636	31,578	27,031	37%

資料:「農産物検査結果」(農林水産省)

注:3年産は、令和3年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計したもの。

## 令和3年産酒造好適米の主要銘柄の生産状況

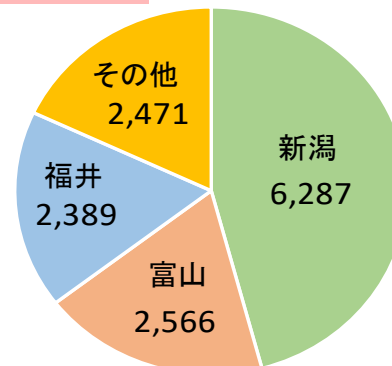
### 【山田錦】



(単位:トン)

	3年産	シェア
	兵庫	15,203
岡山	2,304	9%
山口	1,927	7%
その他	7,383	28%

### 【五百万石】



(単位:トン)

	3年産	シェア
	新潟	6,287
富山	2,566	19%
福井	2,389	17%
その他	2,471	18%

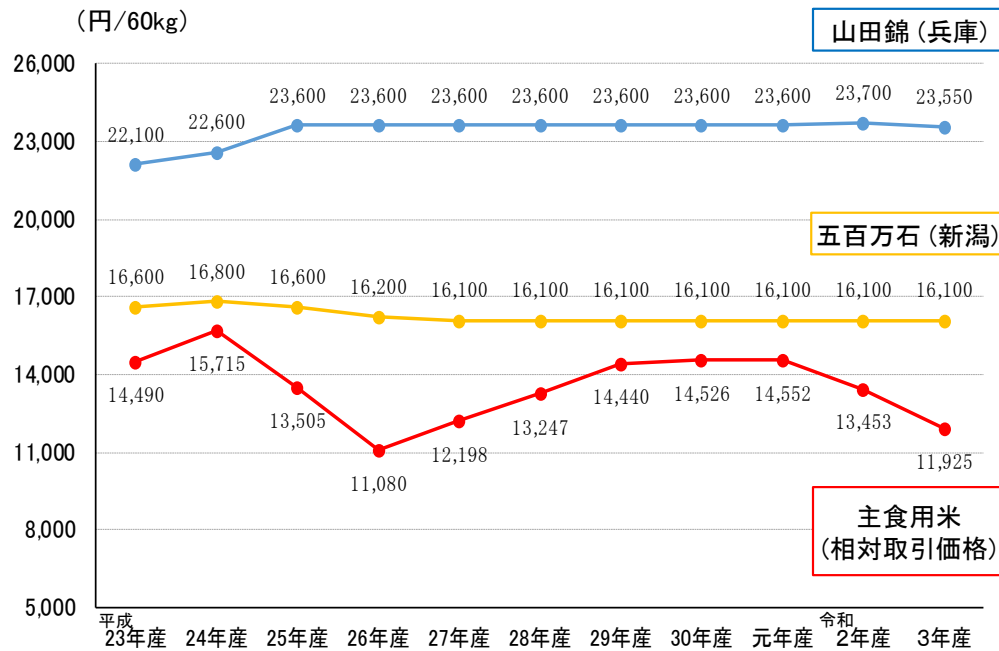
資料:「農産物検査結果」(農林水産省)

注:令和3年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計したもの。

## 6 酒造好適米の需給・価格の状況

- 酒造好適米は、主食用品種に比べて栽培が難しく、収量が低いこと等から、取引価格は主食用米に比べて高値で取引されている。
- 生産状況について、平成27年産は、作付面積の増加や作柄が良かったこと等から大幅に増加したため供給過剰となり、その後は、需要減少も伴って生産抑制が行われている。
- 令和3年産は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も踏まえ、さらなる生産抑制を行ったことにより、対前年▲1.2万トン（▲14%）と、約7.4万トンとなると見込まれる。

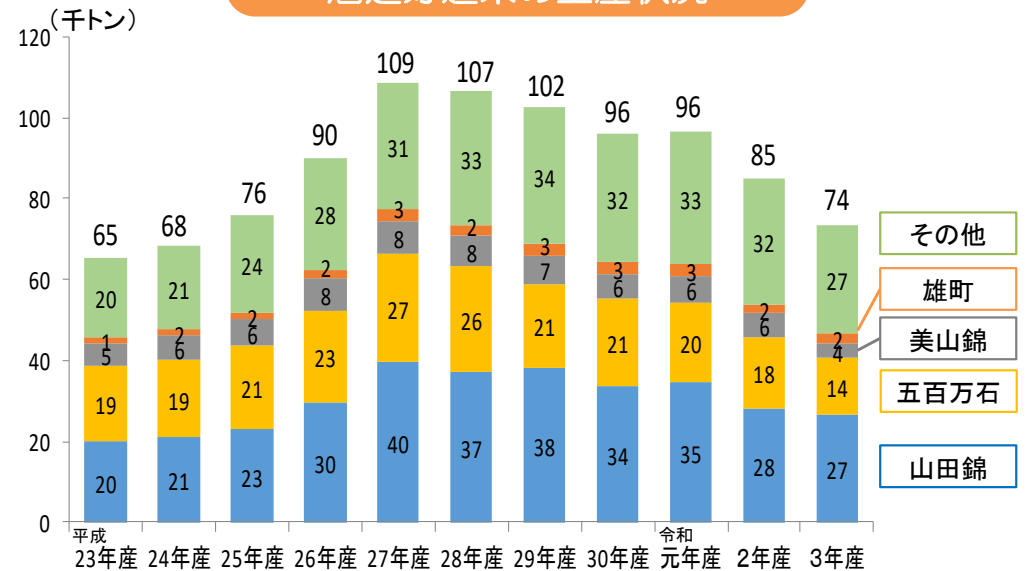
### 原料米の販売価格の推移



注1: 酒造好適米(日本酒造組合中央会からの聞き取り)は、1等米の販売価格

注2: 主食用米(相対取引価格)は、出回りから翌年10月(3年産は令和4年4月)までの1等米の通年平均価格であり、包装代、運賃を含み、消費税相当額を含まない。

### 酒造好適米の生産状況



資料: 「農産物検査結果」(農林水産省)

注: 3年産は、令和3年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計したもの。

### 酒造好適米の全体需要量(推計)

平成28年産	29年産	30年産	令和元年産	2年産	3年産	4年産
96~98	93~95	87~89	82~84	69~71	67~69	66~68

注: 令和3年産から令和4年産の需要量は、令和3年7月に実施した需要量調査結果から推計したものであり、それ以降の酒造メーカーにおける需給状況により変動する可能性があることに留意。

# 7 酒造好適米の需要に応じた生産について

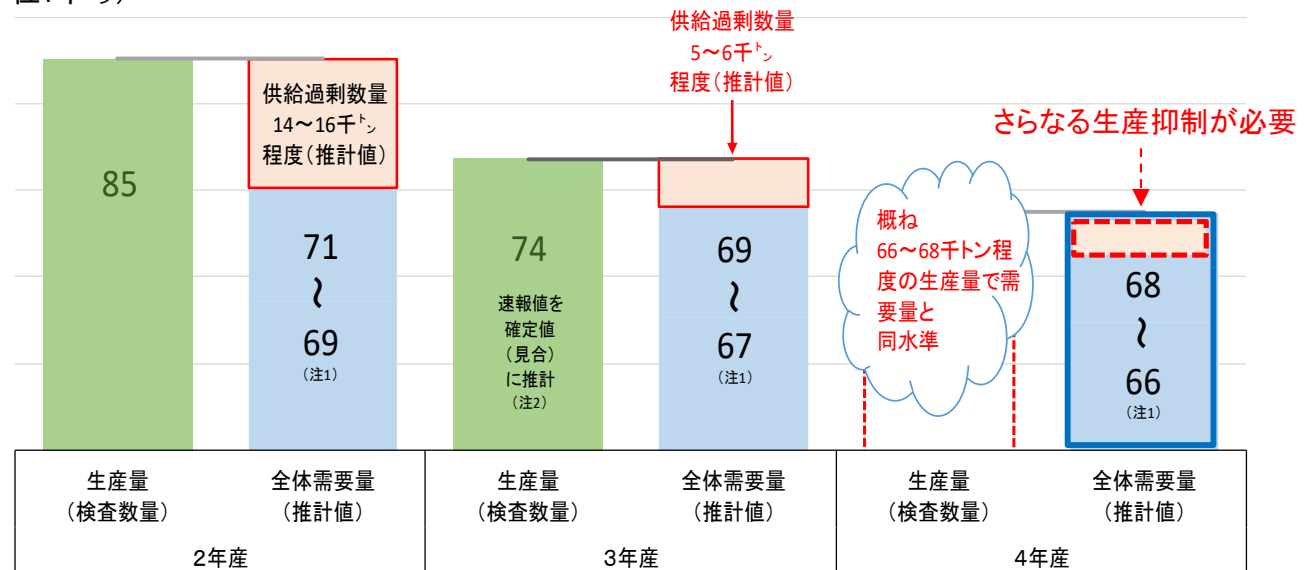
- 酒造好適米の需要に応じた生産に向けて、生産及び実需の関係者による「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を毎年開催するとともに、需要に応じた生産を行うための指標として、平成28年度から全酒造メーカーを対象とした酒造好適米の需要量調査を実施。
- 令和3年7月に実施した需要量調査によると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、
  - ① 令和2年産については、全体需要量（推計値）と生産量を比較すると、14～16千トン程度が供給過剰となっているものと推計され、
  - ② 令和3年産については、全体需要量が令和2年産から2千トン程度減少しており、生産量（推計値）が需要量を5～6千トン程度上回る状況。
  - ③ 令和4年産については、全体需要量と同水準の生産量とするためには、66～68千トン程度に生産抑制する必要があるが、令和3年産以前の持越在庫も考慮すれば、さらなる生産抑制が必要。

## 調査の実施状況

	令和3年度
調査期間	令和3年7月
調査対象	酒造メーカー 1,396社
回答数	717社
回答率 (数量ベース)	81～82%

## 酒造好適米の全体需給状況の見通し（推計）

(単位:千トン)



注1: 各年産の全体需要量(推計値)は、令和3年7月に実施した需要量調査の数量ベース回収率が、令和元年産酒造好適米の全体需要量(82～84千トン)と当該調査の令和元年産の需要量(約67千トン)から約81～82%と推計されるため、各年産の調査結果の需要量を当該割合で除することにより算出。

注2: 生産量は、農産物検査数量(醸造用玄米)の値。ただし、令和3年産は、令和3年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計。